

Title	プロ野球選手のキャリア・トランジションについての一考察：引退後のLife Satisfactionを高める要因の検討
Sub Title	
Author	関田, 智 (Sekita, Satoshi) 渡辺, 直登 (Watanabe, Naotaka)
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2010
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2010年度経営学 第2543号
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002010-2543">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002010-2543</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

80930592

関田 智

主査

副査 1

副査 2

渡辺 直登

河野 宏和

小幡 績

## 研究テーマ

プロ野球選手のキャリア・トランジションについての一考察  
—引退後の Life Satisfaction を高める要因の検討—

## 内容の要旨

2010年にプロ野球を引退した日本人選手92名の平均年齢は30.6歳だった。このことは、アスリートとしてよりも引退してからの人生の方がはるかに長いことを意味している。したがってアスリートが引退した後のキャリアを充実させることは、豊かな人生を歩むうえで重要な要素となる。

本研究の目的はスポーツの選手を職業としてきたプロフェッショナルのアスリートが、引退後に豊かなキャリアを歩むうえで満足度を高める要因ならびに阻害する要因を導くことである。日本のプロ野球(NPB)を引退した元プロ野球選手99名に関する文献調査のほか、現在37歳から52歳の11名に対して半構造化インタビューを対象者一人当たり20分から120分間、対面式もしくは電話で行った。

調査の結果、学生時代の学業成績、引退からの数年で働く意味づけと実際の職務を一致させること、選手時代のチームメイトや知人、新たな職場の上司と同僚、家族や友人など多様な人材との関係、野球への再関与がライフキャリア満足度を高める要因として明らかになった。一方、忍耐力を自負するアスリートも職場での人間関係は職務不満足度を高める要因となることも明らかになった。

引退後のキャリアをスタートさせるうえでは年齢も重要な要素であり、40歳代で退団する打撃投手やブルペン捕手はその後のキャリア発達が阻害されうることも示唆された。